

# 研究推進校事業報告書

## 〈取組と成果のポイント〉

- ・「交話」（考えを広げたり深めたり、気付きの質を高めたりするとともに、仲間とかかわることで、コミュニケーション力を伸ばす話し合い活動）を道徳の授業の中核に捉えるなど、「道徳の時間」における指導方法を工夫したことで、子どもたちが他者の意見に耳を傾けるとともに、自己の考えを振り返り、道徳的諸価値について理解したり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができるようになった。また、教師も自信をもって道徳の授業を行うことができるようになった。
- ・子ども自身が学びを実感できるとともに、教師の授業をつくる力を向上させる評価の在り方について検討し、評価の方法についての理解を深めた。
- ・「別葉」や「他教科や特別活動との連携計画（8 p 参照）」を作成したことで、道徳の授業での道徳的価値観に対する学びを行為や習慣と結び付け、実践意欲を高めたり、実感を伴った理解の深化へとつなげたりすることができつつある。

## 1 研究推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
安城市立安城南部小学校	安城市安城町城堀48番地	0566-76-2332	602名	

## 2 研究課題

### (1) 道徳の指導の工夫

- ①「交話」を手立てとした、他者の意見に耳を傾けるとともに、自己の考えを振り返り、道徳的諸価値について理解したり、物事を多面的・多角的に考えて自己の生き方について考えを深めたりする授業

### (2) スキルトレーニングの指導と学習環境の整備

- ①「交話」をめざし、かかわる力を育てるためのスキルトレーニングの指導方法と学習に適した環境の在り方についての検討

### (3) 学校教育活動全体で行う道徳教育の充実を図るための教育課程の編成

- ①全体計画、別葉、年間指導計画を踏まえた道徳教育の推進
- ②実践力を育むための家庭や地域との連携

### (4) 道徳の評価の在り方の検討

- ①子どものよさを伸ばし、指導の改善に生かす評価方法の検討

## 3 研究主題とその設定理由

### (1) 研究主題

子どもを捉え、よさを伸ばす道徳教育の在り方  
仲間とよりよくかかわり、自他のよさを認め合う南小っ子の育成  
—交話を重視した道徳の授業を通して—

### (2) 主題設定の理由

本校の学区には、豊かな自然が広がっている。子どもたちは、四季折々の美しい田園風景を眺めながら登校してくる。また、地域とのつながりが深く、地域の催しや子ども会の活動に進んで参加している子どもも多い。小さい頃から多くの自然や人とかかわり合いながら育ってきた子どもたちは、素直で人懐っこく、意欲的で根気強いという特色がある。一方で、全国学力・学習状況調査の結果から、

全国平均と比較すると、奉仕活動に消極的であったり、十分に自己有用感をもつことができていなかったりするという課題が挙げられる。

本校では、平成 26 年度から、よりよい人間関係を築くことができる子どもの育成を目指し、コミュニケーション力を育むことに重点を置いた研究を進めてきた。徐々にではあるが、聞く力・話す力・受け入れる力が身に付き、親和的に話したり聞いたりすることができる子どもが育ってきた。しかし、昨年度の学校評価アンケートの結果を見ると、「人の思いや考えを受け止めて、自分の思いや考えを進んで発表することができた」と答えた子どもは、69.9%にとどまった。他者とのよりよいかかわり方を学ぶ機会を一層充実させるとともに、自分に自信をもち、主体的に物事に取り組むことができる子ども『自分のよさを自覚し、のびのびと力を発揮する子』を育てていく必要がある。

本校では、「交話」を重視した教育活動を推進し『他者と協働し、主体的に課題解決に取り組む子』を育てることを目指してきた。子どもたち自身、自他のよさや成長を十分に認識するには至っていないが、多くの授業では、「交話」の力を発揮し、他者と協働して課題解決に向かおうとする姿が見られるようになった。折しも、道徳教育の抜本的改善・充実を図るため、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として、新たに位置付けられることになった。目指すのは、「考え、議論する道徳」である。これは、本校が取り組んできた「交話」を重視した教育活動と密接にかかわるものであり、「交話」を通して身に付けた力を発揮してこそ、他者の意見に耳を傾けるとともに、自己の考えを振り返り、道徳的諸価値について理解したり、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方に対する考えを深めたりすることが可能になると考える。

また、地域の教育力が高い本校の特色を生かし、他者とのかかわり、多様性を認め合い、協働して課題を解決していく経験を積み重ねることを通して、子どもたちの主体性・社会性・道徳性を育てていきたいと考えた。「交話」を道徳の授業の中核に据え、『一人一人のよさに目を向け、互いに認め合う子』を育て、自己のよさに気づき、それを伸ばしていこうとする道徳性を身に付けさせることを通して、生活に生きた「仲間とよりよいかかわる」姿が見られるようになることを願い、本主題を設定した。

#### 4 研究の概要及び特色

##### (1) 研究の概要

- ・道徳の教科化を見据え、子どもたちの道徳性を養うために、「道徳の時間」における指導方法と評価の工夫、改善について取り組む。
- ・子どもを的確に捉え、よさを伸ばす「道徳の時間」が、学校の教育活動全体で行われる道徳教育の「要」となるように、学校としての構想力を確立し、カリキュラムマネジメントの工夫、改善を図る。

##### (2) 研究の仮説と手立て

###### 【仮説 1】

「交話」を道徳の授業の中核に据え、「考え、議論する道徳」の授業づくりを推進していけば、子どもの道徳性が養われ、自分のよさを伸ばすとともに、多様な個性や考え方を認め、互いに思いやり、高め合う心が育まれるであろう。

###### 【仮説 1】に対する手立て

###### ① 「交話」の成立を目指すスキルトレーニング

朝の帯時間を利用し、言葉の力を鍛えるトークトレーニングや聞きトレーニング（以下、聞きトレ）、かかわる力を育てるソーシャルスキルトレーニングに取り組む。

###### ② 魅力的な教材の開発

読み物教材にとどまらず、地域教材の開発や報道、書籍など、多方面から資料を収集し、蓄積していくことで、資料の取り扱い方や魅力的な教材の提示法についての在り方を探る。

### ③ 子どもの心に響く指導法の工夫

指導のねらい、授業展開や発問の仕方、効果的な「交話」の場の設定、構造的な板書、振り返りの工夫について研究し、道徳的諸価値についての理解したり、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方に対する考えを深めたりすることができる指導法を確立する。

### ④ 外部講師の活用と指導体制の充実

教師の力量向上を図るため、外部講師を招いた研修会、授業研究会を計画的に実施するとともに、学校の全教師が協働して授業づくりを行い、学び合う体制をつくる。

#### 【仮説2】

学校の教育活動全体で行う道徳教育の充実を図り、道徳の授業とのつながりを大切にした教育課程を編成すれば、身に付けた道徳性を発揮して、他者と対話し、協働しながら、主体的に自己課題に取り組むことができる子どもが育つであろう。

#### 【仮説2】に対する手立て

##### ① 全体計画、別業、年間指導計画を踏まえた道徳教育の推進

他教科や総合、特別活動との関連、体験活動の充実、地域人材の発掘などを見据えた計画を作成し、体験による道徳教育と交話を重視した道徳の授業が密接にかかわり、相乗効果を生むように、道徳教育の「要」として、道徳の時間を位置付ける。

##### ② 実践力を育むための家庭や地域との連携

学校の経営方針や教育活動について、家庭や地域への積極的な発信に努める。協力体制を築き上げ、地域の特色を生かした道徳性を育む場を創造する。

##### ③ 子どものよさを伸ばし、指導の改善に生かす評価方法の検討

子どものよい点や進歩の状況を適切な評価によって見取り、積極的に認めるとともに、指導過程や指導方法を検証し、その改善・充実につながる評価の在り方を追究する。

##### ④ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた校内環境の整備

個のニーズに応じた支援の充実を図るため、落ち着いた学習環境の整備に努める。

### (3) 研究構想図

最後の頁参照

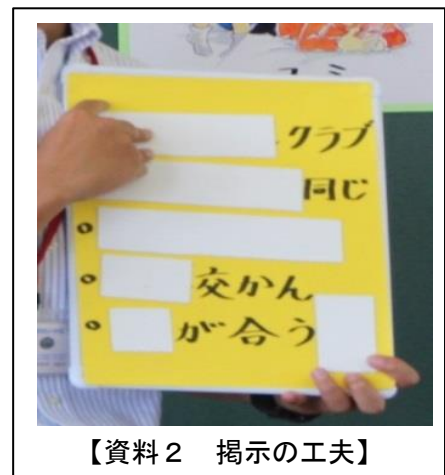
### (4) 研究課題にかかわる取組

#### ① 子どもの心に響く指導の工夫

##### ア 子ども理解に基づいた資料研究

学級の実態や子どもの発達段階を踏まえ、資料選びをした。また、子どもが共感し、内容を理解しやすくするために、資料の内容を一部改作した。

6年「メールの返信」では、メール内容が子どもたちには馴染みのないクラブチームの内容であった。通学班での悩みに変更したことで、自分ならどうするかと、葛藤する場面を設定することができた。また、短い時間で読み取りが苦手な子どもでも正確に内容を把握できるように、掲示の仕方を工夫した。穴埋め形式にして、子どもに何が当てはまるのかを考えさせながら行った登場人物の性格や人物同士の関係を紹介する方法(資料2)は、資料の中でポイントとなる内容が子どもたちの印象に残る効果的な方法であった。範読しながら登場人物の絵や台詞を掲示していく方法(資料3)も効果があった。板書に残すことで、内容の把握がしやすくなり、話合いの場面でも板書を見直し、人物同士の関係性などを確認しながら意見を言う子どもが増えた。



【資料2 掲示の工夫】

目の前の子どもの実態に合っていたり、子どもたちが興味・関心をもったりする資料を選ぶために、時事ニュースや新聞記事などからも資料を探した。3年生では、新聞記事に載っていた「友愛の傘」をテーマにした授業を行った。商店街から寄付された傘が地下鉄の駅に置いてある。傘を持っていない人に利用してもらうための傘だが、用意した傘はすぐになくなってしまう。それどころか、傘立ての中には壊れた傘やごみが投げ込まれているという記事である。記事の最後は、「それでも、商店街の人たちは、今年も新しい傘を用意する予定である。」と締めくくられていたが、最後は読まず、「商店街の人たちは、これからも友愛の傘を続けた方がいいか。それとも、やめた方がいいか。」と発問した。ノートの振り返りには、次のような言葉があった（資料4）。



#### 【資料4 「友愛の傘」の授業の子どもの振り返りの記述】

今日のじゅ業で分かったことがあります。

道徳の時間は、みんながしあわせになる方法を考える時間だということです。

今日は、かさを借りる人も、商店街の人もしあわせになる方法をみんなで一生けん命考えまし

日常生活で起こりやすい出来事なので、子どもたちは興味をもち、具体的に生活とかかわらせて考えることができた。話合いの前半では、「友愛の傘をやめるか続けるか」ということを考えていたが、少しずつ続けるためのよりよい方法を考え始めた。そして、最後には、「商店街の人も傘を借りる人も気持ちよくなるためにはどうするか」という基準で考えることができた。

「社会の中でみんなが幸せに生きる方法を探っていく」これこそ、道徳教育の目標でもある。振り返りからも、「他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」が育ちつつあることが感じられる。

他にも視聴覚教材、紙芝居、絵本などからも資料を作った。いろいろなところからよい資料を見つけるために、日々教師がアンテナを高く張って、道徳教材として使えるものがないかという目で見ていくことを心掛けている。

#### イ 切り返しや揺さぶり

交話の場において、多くの子どもが意見を言う「量」も大切だが、活発な意見交換がなされていればそれでよいというものではない。互いの考えをじっくりと聞き合い、かかわらせながら広げ、深めていく「質」にこだわりたい。そう思いながら授業を進めてきたが、「質」の高い「交話」はなかなか難しい。そこで、3学期は、話合いの質を高めていくための授業の中での教師の出に焦点を絞り、研究を進めることにした。例えば、同じ意見に偏ってきた場合には、「話合い途中で教師が反対意見を出す。」「役割演技で、子どもが戸惑うような反応をする。」子どもたちが深く考えずに当たり前のことを言っている場合には、「教師が子どもたちが驚くような質問をする。」など、教師が授業の中で出ていくことで、子どもたちを立ち止まらせ、子どもたちの考えを上へのステージに引き上げることを目指した。『子どもたちを立ち止まらせるための方法』の具体例を集め、共有化を図った。

主題名	友だちのことを考えて B-(9) 友情、信頼
資料名	森の ともだち (あかるい ころ)
どのような場面で	ぼんことうさこに責められているこんたをさるきちがかばおうとする場面を役割演技で演じる場面
教師の出	教師がぼんこ役になり、子どもが戸惑うような意地悪な言葉をさるきち役の子どもに向けて言った。「うまく跳べないこんたが悪いのよ。」「すぐにひっかかったら楽しくないじゃないの。」と言うと、口ごもってしまう子、何とか説得しようとする子等、様々な反応を見せた。
結果	役割演技を行う前は、トラブルが起こったときの状況やぼんことうさこの立場をよく考えず、正論を語る子どもが多かった。しかし、実際に役割演技を行ったことで、問題を解決する難しさや相手に自分の主張を伝えることの困難さに気付くことができた。そして、一旦立ち止まり、問題をより深く把握した上で、よりよい解決策を考えようとする姿が見られた。さらに、周りで役割演技を見ていた子どもに感想を尋ねると、「ぼんこはひどい。そんなこと言ってたら、友達がいなくなる。」「こんただって一生懸命跳んでいるんだから、さるきちはそれを教えてあげたいと思う。」等、二人のやりとりを見て感じたことから、自分の考えを深めていく様子が見られた。

### ウ 授業展開と発問の工夫

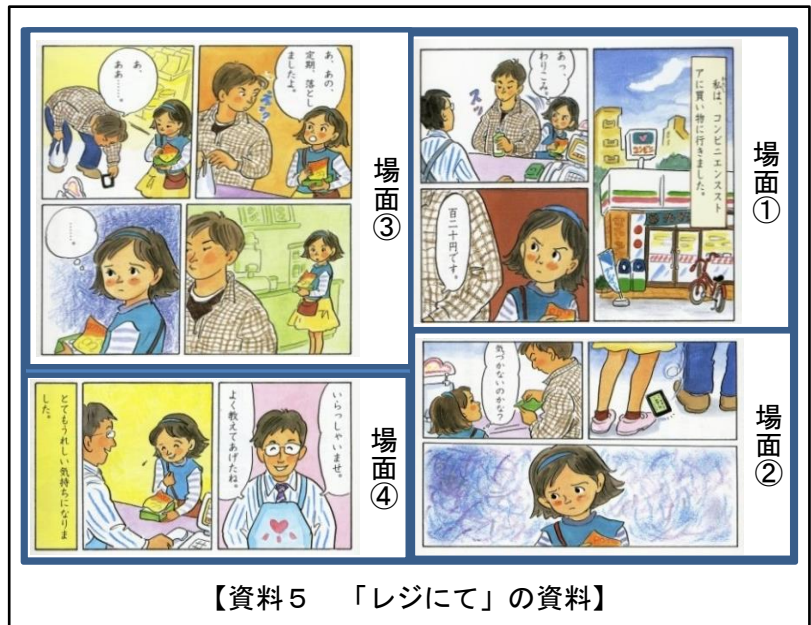
6年生で使用した「レジにて」

は、漫画で表現された教材である。授業の実践では、資料を4つの場面に分割し（資料5）、場面②まで提示した後、交話を設定した。話の結論が分からないからこそ、定期券を落としたことを男の人に伝えるかどうかで揺れる女の子の気持ちについて、立ち止まって考えることができた。

また、女の子の気持ちを考えるのではなく、自己の気持ちを女の子に投影することで、自分

事として話を捉えることができるように、「あなたならどうしますか」と発問した。定期券を落としたことを男の人に伝えるか、伝えないかという決断を迫られている状況に自分を重ねることで、「こんな人でも伝えたほうがよい」「こんな人に伝えたくない」という狭間で葛藤する気持ちを自分のことのように考えることができた。子どもたちの中には、「え、どうしよう。」とつぶやいたまま、考え込んでしまう子どももいた。

さらに、場面③まで提示することで、礼を言わない相手に対しても親切にするべきだったかについて話し合いを深めることができた。初めは男の人の行動を否定したり、「お礼くらい言ってほしい」という女の子の気持ちを挙げたりする意見が多く出された。しかし、交話の深まりとともに、自分の生き方に着目することができたと捉えられる意見が多く発表された。そして、場面④の提示で、「親切は他人のためにするのではない」という価値観を、子どもたちの交話から見出すことができた（資料6）。





## エ 板書の工夫

構造的な板書になるように心掛けた。4年生「100点を10回とれば」では、「自分がつろうだったら」という主発問を設定し、「だまっている」「まちがいを言う」の二択で、赤白帽子をかぶることで立ち場を明確にさせた。

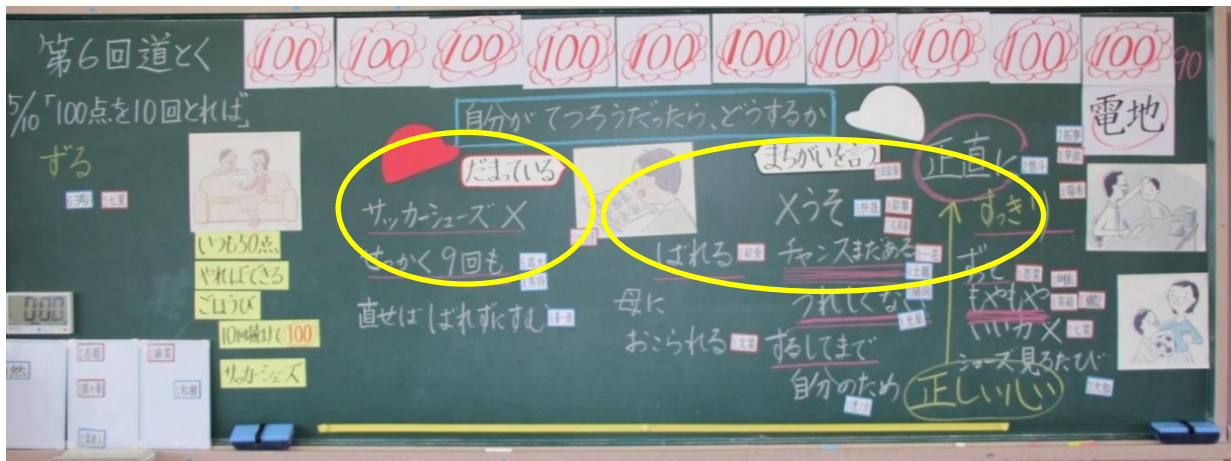
板書では、視覚的に互いの立場の意見が理解できるように右と左に分けて意見を書いた（資料7）。構造的な板書を仕組んだことによって、相手の意見を踏まえた上で、心に残るもやもやする気持ちに気付く意見を引き出すことができた。

### 【資料6 「レジにて」の場面③の資料を提示した後の授業記録】

- C1：教えてあげたのに、お礼も言えないのか。  
 C2：最後まで感じの悪い人だな。  
 C3：拾った私がばかだった。  
 C4：教えた意味がなかった。  
 T：本当に。本当に意味はなかったの。  
 C1：意味は・・・、ある。・・・・（沈黙）・・・・  
 C5：意味はあった。女の子が教えて、男の人が拾えたんだから。  
 C1：拾えたんだから意味がある。男の人はちょっとおかしな人だったけど、正しい行動ができた。  
 C3：お礼を言ってくれなくても、自分の気持ちがよくなる。  
 C2：相手がどんなふうでも、自分が親切にしたことに意味がある。  
 T：じゃあ、続きです。

### 【場面④の資料を提示】

- C：おお。（拍手）  
 C6：教えてあげて、すごくよかった。  
 C7：お礼は言ってくれなかったけど、誰かが見てくれているんだな。  
 C8：優しいことをするってやっぱりいいな。  
 C1：親切な行為に意味のないことなんてないんだなって思いました。  
 C9：いいことをすると、自分に幸せが戻ってくる。  
 C2：知らない人でも親切にしたら返ってくるのと同じで、嫌なことをしても返ってくる。周りの人に親切にしたいなと思いました。  
 C10：親切は人のためじゃなくて、自分のためでもあります。



【資料7 「100点を10回とれば」の板書記録】

## オ 外部講師の活用と指導体制の充実

4名の講師の先生をお招きして、10回に及ぶ指導案検討会や授業研究会を行った。講師の先生から、道徳の授業におけるオリエンテーションを行って、以下のことを伝える大切さも教えていただいた。

- ・道徳の授業は、自分の考え方を見つめる時間であり、自分の意見をしっかりと言うとともに、人の話を聞くことが大切である。
- ・自分自身の考え方、思い方、感じ方について真剣に向き合う時間である。
- ・答えは人それぞれであり、どの答えも間違いではない。
- ・友達の考えに触れることで、類似点や相違点に気付く、自分の考えはどうなのだろうと見つめながら、自分の考え方を振り返る時間である

全職員が道徳の授業づくりのイメージを豊かにするとともに、子どもだけでなく教師自身も道徳の授業への取り組み方を見つめ直すことができた。道徳の授業では、子どもたちに資料を通し

て何に気付かせたいのかという授業のねらいを明確にもつことが必要である。そのために、必要なねらいにそった動機付けや発問の仕方、方法について、講師の先生から具体的に教わることができた。そのねらいに子ども自身が気付くことを大切にし、道徳の目標である、「内面的な力を育むための教師の働きかけ」を具体的にイメージすることができた。全教師が協働して、授業づくりを行う体制が整い、教師の授業力が向上し、実際に道徳の授業の組み立て方が分かってきた。

## ② 「交話」の成立を目指すスキルトレーニング

朝の帯時間を利用し、「スマイルトレーニング」と名付けたスキルトレーニングを行った。「トークトレーニング」、「聞きトレ」、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニングなどを取り入れた。

構成的グループエンカウンターである「交話ウォンテッド」は以下のようなルールである。

【ルール】・縦3マス・横3マスの合わせて9つのマスにテーマ（色・食べ物など）に合わせた言葉を埋めて、それに当てはまる人を探す。  
・縦・横・斜めのマスがそろったら、ビンゴ。

教師がテーマと、マスに当てはまる言葉を決めた。あえて、テーマに当てはまる子どもが少ない条件を入れることで、たくさん子ども同士で話すことができた。子どもが友達とかかわり合うことによって課題を解決していこうとする意識が見られた。子どもたちからは、「普段話をしない友達と話すことができた。」「話すのが楽しい。」などの前向きな感想が出ている。

これらのトークトレーニングを繰り返し行うことで、息の長い発言ができるようになってきており、自分の言葉で、自分の思いを伝えられるようになってきた。スキルトレーニングで培った力を道徳を中心とした授業の中での話合いに生かせるようになってきたと感じる。また、アサーショントレーニングによって、「一人一人の発言を大事にしていこう」という意識を育てることができ、本音を語れるようになってきた。また、友達と語り合うことによって、よりよいものが見付けられることに気付かせることもできた。

どの学年でどんな実践をしたのかをデータ（資料1）としてまとめることで、スキルトレーニングの情報を共有し、他の学級でも簡単に試すことができるようにしている。

### 【資料1 スキルトレーニングの実践内容】

実施学級	種類	エクササイズの名前	参考書籍		児童の振り返り (主なもの3つ程度)
			書名	ページ	
6-2	アサーショントレーニング	伝え方の3つの種類	アサーショントレーニング40	5	・同じ言葉でも、言い方や表情がちがうと、ジジさんじゃなくなっちゃうことが分かった。 ・ウーちゃんの言い方は、聞いていてとイライラするので、ジジさんでいたいと思いました。 ・今までは、コーちゃんになっていたことも多いと思うので、話し方に気を付けたいと思いました。
2-2	構成的Gエンカウンター	誕生日チェーン	エンカウンターで学級が変わる	110	・楽しかった。おもしろかった。 ・友達の誕生日を知ることができて嬉しかった。 ・言葉を使わないのは難しいけど、仲良くなれた。
4-2	ソーシャルスキルトレーニング	かぶらナイス！	SST実践教材集	103	・他の班とかぶらなかったので、嬉しかった。 ・班で答えを決めるとき、ちょっともめたけど、いいのが決まってよかった。





を言ったりする姿も見られた。保護者や見学先の方からも、褒めていただいた。子どもたちの道徳性を高め、実践へと結び付けることができたと感じる。また、実践できたことが保護者や地域の方から認められたことで、道徳的な行為を実践する気持ちよさを感じるようになったと思われる。

生活科の学習を軸にして、道徳や国語と連携させながら行った単元「大すき なんぶの町」の実践により、子どもたちは素敵な人がたくさんいる地域を誇りに思い、地域を大好きになった。

## イ 実践力を育むための家庭や地域との連携

10月の授業参観では、全学級が道徳の授業を公開し、参観した保護者に授業の感想を書いていただいた。

### 【道徳の授業を参観した保護者の感想】

道徳の授業「あの子」を参観して、難しいテーマだと思いましたが、予想以上に子どもたちが自分の意見をしっかりとっていて驚きました。うわさ話がいじめにつながることも、それがいけないことだということも分かっているのに、どうして子どもたちはうわさ話を流してしまうのか。また、「あの子」が直接、うわさ話を聞いてしまったらどうなるか。家でも、もう一度よく話し合ってみたいと思いました。

＜4年生保護者＞

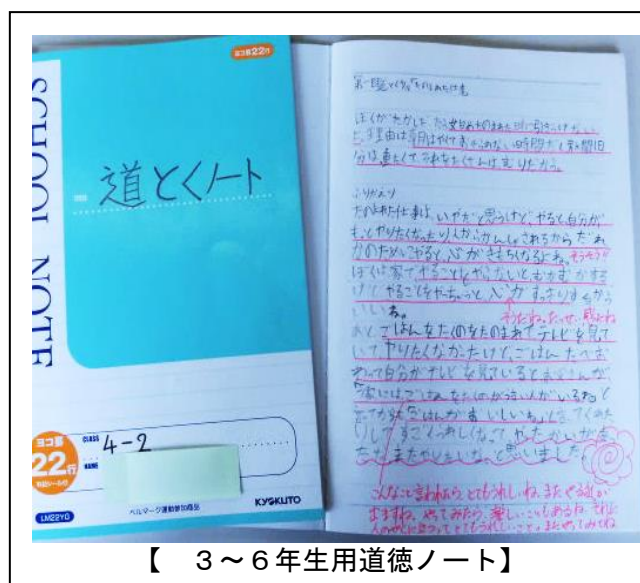
下線部にあるように、保護者は子どもたちの真剣に議論する姿に感心し、さらに、取り上げた道徳的価値についても関心をもって参観された。「深く考えさせられた。」という感想を寄せてくださった方も何人もいた。また、「学校だけでなく、家庭でも道徳性を高めることを意識したい。」という声もたくさん聞かれた。これらの感想を子どもたちに紹介することで、「道徳は、考えに迷うこともあるけれど、すごく役に立つ勉強だから、これからも頑張りたい。」と道徳の授業に対する関心や意欲をさらに高めることができた。実践力を育むための家庭との連携の基盤が出来上がってきた。今後、連携の方法をさらに探っていきたい。

## ④ 子どものよさを伸ばし、指導の改善に生かす「道徳科」の評価について

### ア 道徳ノートの活用

昨年度まで子どもたちは、道徳の授業で中心発問に対する自分の考えや終末の振り返りを、教師が作成したワークシートに書いていた。そして、その記述から、教師は子どもたちの学びを見取り、指導方法を検証してきた。

今年度は、子どもたちの学びを確実に蓄積し、子ども自身や教師がいつでも読み返すことができるようにしたいと考え、3年生以上は道徳ノートを使用することにした。ノートを使うことで、個人的なものとして、より本心が書きやすいと思われた。そして、ノートに道徳の授業の回数や日付、資料名



を記録することにし、子どもたちにも道徳の授業の継続性を意識させたり、過去の学びを振り返りやすくさせたりすることをねらった。1～2年生は、場面の絵や吹き出しがあったり、発問が書かれていたりした方が考えを書きやすいなど、発達段階を考慮して、ワークシートを使用し、道徳専用のファイルにつづることにした。

この道徳ノートと道徳ファイルを活用することで、教師は子どもの学びを一時間単位だけではなく、長期に渡って見取ることができるようになった。また、子どもたちも自分自身の学びを過去に遡って読み返し、自分自身の成長を確かめることができるようになった。

## イ 評価の方法

教師は、授業の振り返りの記述を読み、一時間単位の評価や一定のまとまりの中での評価を行う。本校では、夏休み中、1学期の道徳の授業で子どもが書きためた振り返りの記述を読み返し、子どもの成長を見取ることができるかを検証した。その際、次の4つの視点を意識した。①道徳的価値の認識がどれくらい深まったか。②他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。③多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか。④授業後、道徳的価値を意識した行動ができているか。実際に評価をしてみると、教師が確かめたかったことが振り返りの記述から読み取れなかったり、資料に固執したままで、道徳的価値の認識にたどり着けていなかったりする子どもがいて、全ての子どもを評価することは難しかった。そこで、2学期以降、振り返りの時間を十分確保するとともに、子どもたちが学びを振り返りに反映できるような言葉掛けを意識した。そして、継続していく中で、数か月のまとまりの中で見えてきた。子どものよい姿を成長として捉え、評価できると考えた。

また、同時に指導過程や指導方法も検証してきた。授業によっては、振り返りの記述が表面的であったり、理想論であったりし、子どもの本心が見られないこともあった。取り上げた資料は適切だったか、発問は適切だったか、授業の中で教師が子どもの心を揺さぶる問いかけをしたかなど、常に授業を振り返って手立てを検証し、授業の改善と充実を心掛けることができた。

### 【児童Aの道徳ノートの抜粋と評価の文例】

#### ①【B－(6) 親切 「心と心のあくしゅ」】

最初の考え：ことわられるかもしれないけれど、とりあえず持ってあげる。理由は、たいへんそうだから。

振り返り：おばあさんの気持ちを考えて、心の中でおうえんするのもいいなと思いました。

#### ②【B－(8) 礼儀 「あいさつ名人」】

最初の考え：「はずかしいからやめてよ。」と言います。おばあちゃんが大きな声でだれにでもあいさつすると、自分がはずかしくなってくるからです。

振り返り：あいさつするといことがあるんだと分かりました。でも、まだ、あいさつをするのがちょっとはずかしいです。できたら、少しでも多くあいさつをしたいです。

#### ③【B－(9) 友情 「ぜったいひみつ」】

最初の考え：ぜったい言わないです。理由は、言ったら友達をおどろかせないし、みんなに何か言われると思うからです。

振り返り：最初は、言わないだったけれど、意見を聞いて変わりました。かわいそうだから言った方がいいなと思いました。友達のことを先に思いたいなと思いました。

★①②の下線から、児童Aは根拠のある自分の考えをはっきりもっていたことが分かる。さらに、③の下線から、交話によって自分と違う考えに触れ、道徳的価値の認識にたどり着けていることが分かる。教師の「よりよい方はどっちだろう」「相手のことを考えるとどうだろう」という揺さぶりが、多面的な見方をするきっかけになった。

#### 【評価文例】

理由をつけてはっきりと自分の意見が発言でき、感心しました。話合いの中で、もっとよいと思う考え方に出会うと、それを取り入れ、自分をより高めようとする意よく感じました。

### 【児童Bの道徳ノートの抜粋と評価の文例】

☆児童Bの道徳ノートより

#### ①【A－(3) 節度 「わなげはやめた」】

振り返り：わたしは、友達に流されないのはすごいと思いました。なぜなら、わたしはいつも「友達にきらわれるかも」「同じじゃなきゃだめかも」と考えてしまうからです。3年生のとき、お祭りで友達にさそわれていないものを買って、けっきょくほしかったものが買えなかったことがあったからです。

#### ②【A－(2) 正直 「新次のしょうぎ」】

振り返り：ずるをしたら、後で顔を合わせられなくなります。わたしもお姉ちゃんと七ならべをやっていたときに、お姉ちゃんがお母さんによばれている間にずるをして勝ちました。でも全然うれしくなくて、お姉ちゃんに泣いてあやまりました。ざい悪感が残って、もやもやしたので、ずるはしたくないです。

#### ③【C－(12) 公正 「あの子」】

振り返り：わたしは、うわさを信じて、他の子に話してしまっ、本人に「そんなことしてないよ。」と言われました。うわさを信じて後かいしました。だから、うわさに流されないようにしたいです。

★①～③の下線から、児童Bは資料を通して、自分自身の生活を振り返り、同じような体験を思い出している。その上で、学んだ道徳的価値の大切さを実感していることが分かる。

#### 【評価文例】

今までの自分はどうだったのかと、自分の生活をふり返って、学んだことをたしかめるすがたがすばらしいです。「だからこうありたい」という意よくには、説得力がありました。

## 5 研究の評価

### (1) 研究の成果

本時のねらいや子どもの実態、生活経験などを考慮し、主人公が自律的に変容する様相が描かれているか、対比のできる人物、場面設定がなされているか、考えが複数に分かれたり、葛藤が生じたりしているかといった点を判断の根拠として資料を選定、分析し、授業の中で提示方法を工夫した。さらに、板書の工夫や言葉の強調、抑揚など、意図をもった資料提示を行うことにより、子どもが資料の内容を捉えやすくなったり、考える糸口を見出しやすくなったりした。一人一人の教師が、授業力を向上させるために、登場人物の自我関与が中心の学習、問題解決型、価値選択型など、様々な授業スタイルに挑戦してきた。また、役割演技を取り入れたり、相互指名に取り組んだり、学年に応じた実践にも取り組んできた。そして、学年で資料や発問の研究を行って授業を構想したり、学級を交換して授業実践を行ったりすることで、教師同士の学び合いを活性化することができた。講師の先生には、指導案検討会に参加していただき、研究授業のご指導をいただいたり、どのように道徳の授業づくりに取り組んでいったらよいかを教えていただいたりした。学校の全教師が協働して授業づくりを行う体制が整えられ、道徳の授業を変えよう、よりよい授業をつくっていこうとする思いを共有することができるようになった。

話す、聞く、かかわる力を育てるために、スキルトレーニングに取り組んできた。トレーニングの成果は、道徳の授業の場でも表れるようになってきた。継続してスマイルトレーニングを行うことにより、学級における仲間意識が高まり、友達の意見を認め、大事にしようとする姿が見られるようになってきた。低学年においては、トークトレーニングで、ハンドサインの習得に取り組んだ。道徳の授業でも、ハンドサインを使い、友達の話とつなげて話すことができるようになった。聞きトレを行ったことで、全体の指示が通りやすくなり、落ち着いて話を聞く子どもが増えた。繰り返しペア学

習やグループ学習を行うことにより、子ども同士が協働して学ぶ姿が自然と見られるようになってきた。

「道徳の時間」における指導方法と評価の工夫、改善に取り組んできたことで、子ども自身が「道徳の時間」における学びを実感することができるようになった。また、教師自身が子どもの見取りから授業の手立てが有効であったか検証し、指導の改善・充実につなげようという意識をもち、道徳の授業づくりを進めてきた。評価に関する研修会をもち、指導と評価の一体化を念頭に研究に取り組んだことで、教師の授業をつくる力を向上させることができた。

年間指導計画や別葉、他教科や特別活動との連携計画を作成し、道徳の授業を核とした道徳教育を推進してきたことにより、一単位時間内では見取れないものを複数時間扱いの中で見取ったり、学期ごとの変容を捉えたりするプロセス評価を行うことができるようになった。また、一内容項目から子どもの学びと成長を見取るのではなく、複数の内容項目を関連付けた評価を行ったことにより、道徳の授業中、授業後にとどまらず、日常生活や生活基盤全般での道徳的な学びと成長を見取ることが可能となった。さらに、評価を基に、道徳の授業改善に取り組んだり、生活の場で生きて働く道徳性を養うためのカリキュラムマネジメントを工夫したりすることで、道徳の授業における道徳的価値観に対する学びを、行為や習慣と結び付け、実践意欲を高めたり、実感を伴った理解の深化へとつなげたりすることができた。

## (2) 今後の課題と取組

研究を進める中で、本校の研究に対する課題が明らかになってきた。どんなときでも「質」の高い交話ができるとは限らないということである。3学期は、「質」の高い交話を目指し、教師の出に的を絞って研究を進めた。その結果、多くの教師が「質」の高い交話の手応えを感じる事ができた。引き続き、研究を進めていきたい。

また、子どもたちが資料に引っ張られてしまい、自分の生活につなげる事が難しいという課題も出てきた。低学年なら、自分の生活につながる具体物を示すなど、生活に返すための学年に応じた手立てが必要である。今後、研究を進めていきたい。道徳の授業で学習した価値に基づく行為を実践していこうとする思いや意欲をもたせるために、家庭や地域との連携をさらに深めていくこともさらに進めていきたい。

評価については、文章に書いたことでの評価が主になってしまうので、思っただけでうまく文章で表すことができない子どもたちをどのように評価していくかという課題も残っている。



## 目指す子ども像

- ・他者と協働し、主体的に課題解決に取り組む子
- ・自分のよさを自覚し、のびのびと力を発揮する子
- ・一人一人のよさに目を向け、互いに認め合う子

自己肯定感

道徳性

## 道徳の授業づくり

### 環境整備

- 落ち着いて学習できる教室環境
- 道徳の学びを実感できる校内掲示

### スキルトレーニング

- 言葉の力を鍛えるトレーニング
- かかわる力を育てるトレーニング

- 「考え、議論する」道徳の授業の実現
- 「交話」の設定
- 指導法の工夫
- 学びを深める発問
- 構造的な板書
- 振り返りの工夫
- 教材の開発
- 外部講師の活用
- 指導体制の充実
- 教師の授業力向上

### 適切な評価

- 子どもにとって、学びや成長を実感できる評価
- 教師にとって、指導の改善や充実につながる評価

カリキュラム  
マネジメント

### 人間関係づくり

- 共感的人間関係を育む学級経営
- かかわり合い、学び合う授業づくり
- 異学年集団と触れ合うペア交流
- 安城南部小児童憲章の唱和と励行
- 全校体制で取り組むあいさつ運動

### 体験の場づくり

- 他教科や特別活動との連携の強化
- 奉仕活動や自然体験などの充実
- 家庭との密な協力体制の構築
- 地域の教材化と地域人材の発掘
- 専門家やゲストティーチャーの活用

## 南小っ子のよさ

- ・素直で人懐っこい子
- ・意欲的で根気強い子